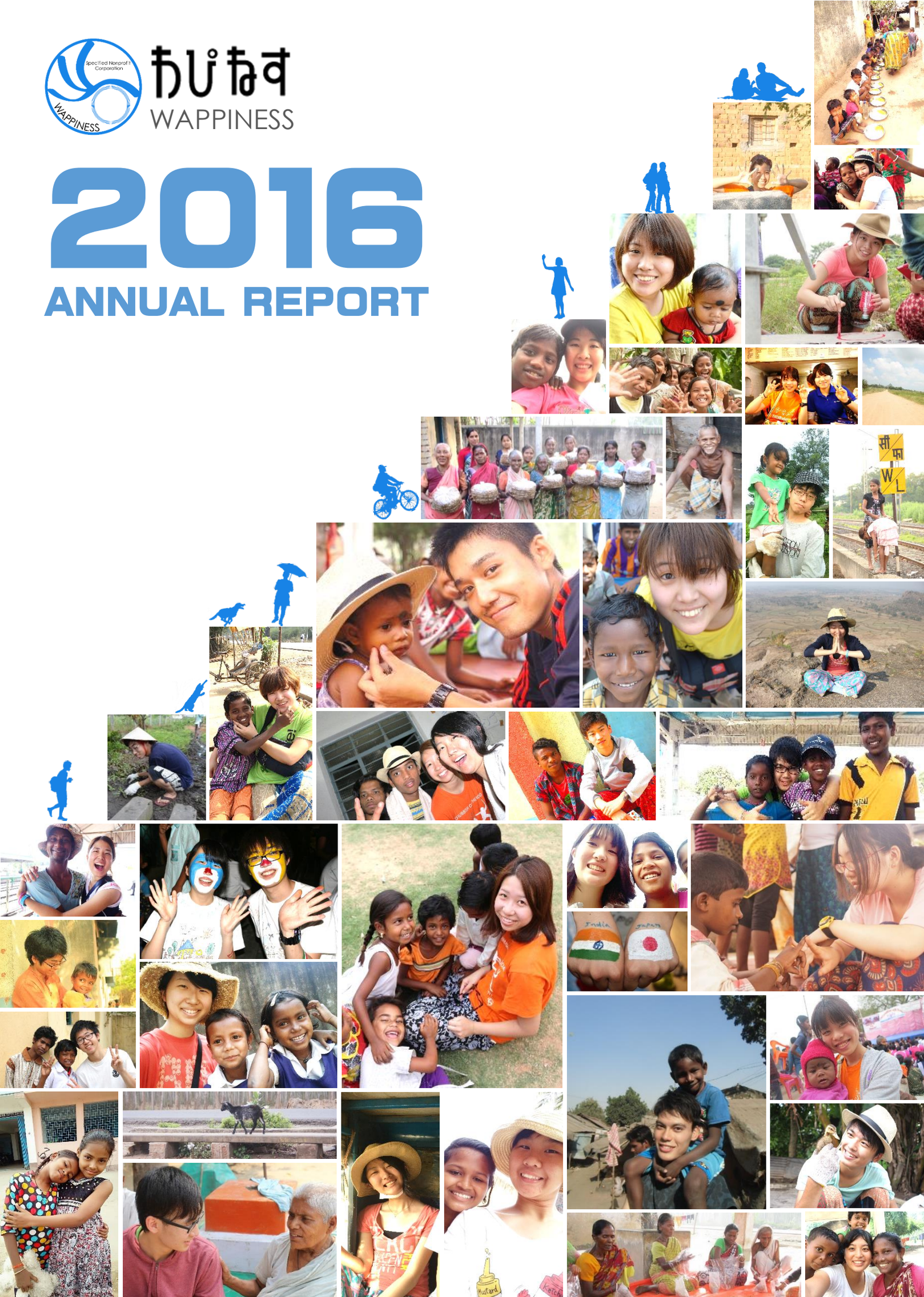
わぴねす
WAPPINESS

2016
ANNUAL REPORT



ワークキャンプから生まれた学生主体の新たな取り組み “進学応援プロジェクト”

2011年から※1ワークキャンプ事業を行っているビシュナプールハンセン病コロニー（インドウェストベンガル州）では、今、ワークキャンプ事業部に所属する学生によるコロニーの未来を変えるための新たなプロジェクトが始まっています。

教育水準の低いハンセン病コロニー

ビシュナプールコロニーは、1986年に37人のハンセン病患者が寄り集まって形成され、現在は、ハンセン病快復者に加えて彼らの子供や孫も含めた3世代の約150人が一緒に暮らしています。このコロニーでは、ハンセン病に対する差別によって、多くの人が職を得ることができず貧しい生活を送っています。貧困により、子供たちも学校に通わずに児童労働することを余儀なくされ、大学はおろかこれまで高校を卒業した人はいませんでした。

ワークキャンプによってもたらされた意識の変化

しかしながら、私たちが行うワークキャンプ活動を通して、コロニーの人々の教育に対する意識に変化が起きました。これまで、稼いだお金は全てその日のうちに使い切ってしまっていたのが、私たちが彼らと生活を共にする中で彼らの自己肯定感や将来に対する展望が少しずつ変わり、子供の将来のためにお金を貯める親が現れ、学校さえも休みがちだった子供たちが自主学習に励むようになったのです。その結果、2016年2月には、コロニー初となる高校卒業者3人が輩出されました。

大学進学を成し遂げた３人の若者 “３hope”

その3人の若者の名前は、ゴネス・カリンディ（Ganesh Kalindi）、スレッジ・カリンディ（Suraj Kalindi）、ビル・カリンディ（Biru Kalindi）といいます。3月に行ったワークキャンプの下見で、その高校を卒業した3人の大学進学に対する強い思いを聞いた学生たちは、彼らを後押しするために初めての学生主体となる進学応援プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、大学進学を希望するコロニーの若者に対する貸与奨学金制度（無利子）で、大学進学に係る費用、自主学習のために必要な家庭教師の費用をサポートし、卒業後の就職活動に関わる問題の解決も目指していくものです。就職後は約10年をかけて返済し、そのお金はコロニーの次世代の子供たちの大学進学の奨学金として循環させます。また貸与する条件として、貸与を受けたコロニーの大学生たちは、大学在学中にコロニーで定期的に小中高校生に無償で勉強を教えるボランティアティーチングを行うことになっています。これはコロニーの子供たちに勉強を習

わぴねすの歩み

2010年3月
・インドハンセン病コロニーを19ヶ所調査する

2011年3月
・インドハンセン病コロニーを6ヶ所調査する

2011年5月
・インドワークキャンプ団体namaste!（ワークキャンプ事業部の前身）を設立

2013年7月
・インド雑貨やさんoaks（就労支援事業部の前身）を設立

2010 → 2011 → 2013

ハンセン病というスティグマを乗り越えて、社会のなかで尊厳を持って生きる

慣づけたり、コロニーの大人たちに教育に対する意識を根付かせたりするねらいがあります。
現在、大学に進学したコロニーの若者3人は、コロニー外の新たな友達とともにキャンパスライフを謳歌しながら、勉学に励んでいます。大学に進学したことで、コロニーの発展のための活動に自主的に参加するようになったり、私たちが行うワークキャンプ活動にもより積極的に協力するようになったりと彼ら自身の新たな意識の変化もみられています。私たちは、この３人の若者をビシュナプールハンセン病コロニーの希望という意味を込めて、「３hope」と呼んでいます。

（※１ 2013年6月～2016年1月の期間は治安悪化のため活動を休止）

プロジェクトリーダー板倉加奈へのインタビュー

（板倉加奈：南山大学外国語学部英米学科4年）

Q.なぜ進学応援プロジェクトをはじめようと思ったのですか？

差別がある中、これまでコロニーや高校といった限られた環境で生きてきた彼らに、大学に進学してもらうことで、より多くの物事や人と触れ合い、知識を深め、視野を広げてほしいと考えたからです。私自身がそうであったように、より多くの物事や人を知ることで、更にそこから世界を広げられたり、自分が持て得る選択肢を広げられたり、ひいては自分自身の人生の目標を持つことができるようになると思うからです。

Q.大学に進学した3人には将来どんな人になってほしいと思っていますか？

自分の可能性を信じ、夢や目標を持って、簡単に諦めない生き方をしてほしいと思っています。コロニーに住んでいる人々のほとんどは長い間、差別対象とされてきたことから、夢を持つことができず、ただ目の前にあることをこなすだけの生き方を選択する人が多いように感じます。差別に囚われることなく、社会に所属する一人の人間として尊厳を持って生きてほしいと願っています。将来的には彼らが中心となりコロニーの人々と共にコロニーをより良くしてほしいと考えています。

Q.インドハンセン病問題解決においてこのプロジェクトの担う役割は何だと考えますか？

ハンセン病の差別は長い間、人々の心に根付いているものなので簡単に改善することは難しいかもしれませんが、最終的にはハンセン病による差別が原因で勉学ができない子、夢や目標を持てない子をなくすことができたらと考えています。

2014年4月
・インドワークキャンプ団体namaste!
名古屋支部を設立

2014年9月
・コロニーの女性自助組織形成のための
W-agora（ワゴラ）プロジェクトを開始

2015年4月
・インドワークキャンプ団体namaste!
つくば支部を設立
・協働型ワークキャンプを開始

2015年5月
・教育事業を開始

2016年4月
・インドワークキャンプ団体namaste!
進学応援プロジェクトを開始

2016年5月
・ワークキャンプ、就労支援、教育事業
の3つを統一してNPO法人わぴねすを設立

2014　2015　2016

インドハンセン病問題

NPO法人わぴねすは、世界で最もハンセン病問題に苦しむ人の多いインドに焦点を当て、彼らの尊厳の回復と経済的自立を目指し、活動しています。

差別・偏見

【差別意識】
近隣住民からの厳しい差別を受け、社会的に孤立している。

【被差別意識】
外部の差別によって、自尊心や自己肯定感を奪われている。

世代を超えて続く差別の負の連鎖

ハンセン病による差別が、ハンセン病快復者だけでなくその子供、孫など次世代にも続く

劣悪な居住環境

故郷から追い出され、ゴミ袋などの端材を集めて作った劣悪な家屋に住んでいる。

就労機会の欠如

差別によって、まともな職に就くことができず、多くの人々が物乞いで生計を立てている。

教育機会の欠如

貧困・差別から子供たちは満足な教育を受けることができない。

医療の欠如

貧困・差別から多くの人々が満足な医療を受けることができない。

ワークキャンプ事業部

ワークキャンプ

人×人＝∞（無限大）のhappy!

インドハンセン病コロニーに日本人学生が年に2回、２週間程泊まり込み、インフラ整備を中心としたワークキャンプ活動を行う。インフラ整備の他に、コロニーの若者に対する進学応援プロジェクトなども行っている。

就労支援事業部

就労支援

ハンセン病コロニーに夢を！

インドハンセン病コロニーの人々にアクセサリー製作やきのこ栽培などの職業訓練を行い、国内外に販路を確保することで彼らの経済的な自立を目指す。

販路の一つとして、彼らの製品を販売するインド雑貨やさんoaksを運営している。

OUR MISSION

すべての人々が、いきいきわくわく

暮らすことのできる社会を創造する

教育事業部

教育

豊かな人間力のある人材の育成

小中学校でのハンセン病啓発教育事業や国内のハンセン病療養所訪問事業を通じて、人が人を互いに思い遣ることの大切さを将来を担う国内外の若者に感じてもらうことを目的とする。そして、心豊かな人間力のある人材を育成することを目指す。

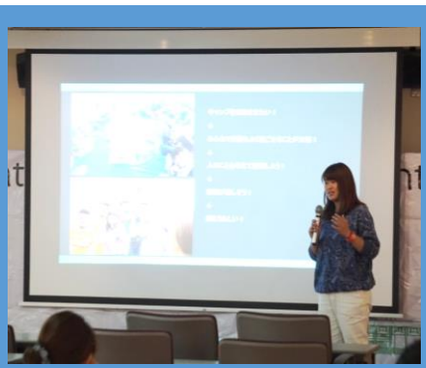
ワークキャンプ事業部

ワークキャンプ事業部（別称：インドワークキャンプ団体namaste!）は、インドハンセン病コロニーのインフラ整備とコロニーの周辺住民が抱える差別意識、コロニーの人々が抱える被差別意識を是正するために、日本人学生が年に２回、２週間ほど現地に滞在し、コロニーの人々と寝食を共にしながらワークキャンプ活動を行っています。現在、学生総数39名が在籍しており、名古屋支部とつくば支部の2つの支部で構成されています。

名古屋支部の活動

名古屋大学、南山大学を中心とした学生が在籍し、人数は少ないですがキャンプ経験が多い精鋭が揃う支部です。

ワークキャンプ活動以外に、活動を外部に発信するための名古屋大学でのプレゼンや、進学応援プロジェクト支援金を集めるための名大祭フリーマーケット出店、小学生に対するハンセン病啓発教育プロジェクト（教育事業部との共同企画）などを行っています。



つくば支部の活動

つくば大学を中心とした学生が在籍し、参加者数が年々増加している熱気と活気に満ち溢れる支部です。

ワークキャンプ活動以外に、活動に対する助成金（Gakuvo Style fund 2016）の獲得、活動資金を集めるための筑波大学の学祭出店、活動を広報するための冊子型パンフレットの製作、他の学生団体との合同新歓の開催などを行っています。

Work Camp

私たちが活動する
２つのコロニー

ワークキャンプ活動は、現在、2013年9月から活動を行ってきたマニプールハンセン病コロニーと、2011年9月から※1活動を行ってきたビシュナプールハンセン病コロニーで活動を行っています。2017年度は、より多くの学生を活動に巻き込みながら、それぞれのコロニーの活動をより良いものへと高めていきたいと考えています。

（※１ 2013年6月～2016年1月の期間は治安悪化のため活動を休止）

マニプールコロニーの活動

マニプールコロニーでは、「We keep our colony clean!」という中長期テーマを掲げて、コロニーの不衛生な状況を解決するためにゴミ収集場や井戸などを建設し、また、コロニーを衛生的に保つことの重要性を伝えるために青空教室の開催や劇の上演などで啓発活動を行ってきました。その結果、少しずつではありますがコロニーの人々の習慣が変わってきました。

2017年度は、ゴミが落ちていないコロニーを維持・管理していくために、コロニーの自助組織の形成にアプローチしていきます。

ビシュナプールコロニーの活動

ビシュナプールコロニーでは、屋根の修繕や上水道の補強などの基本的なインフラ整備を行う一方で、大学進学を希望するコロニーの３人の若者に対して、大学進学費用を支援する進学応援プロジェクトを立ち上げ、彼らが無事に大学に通うことができるようになりました。

2017年度は、さらに基本的インフラの整備を進めながら、より多くの子供たちの教育水準をあげられるように進学応援プロジェクトの制度をより良い形に整えていきます。

就労支援事業部

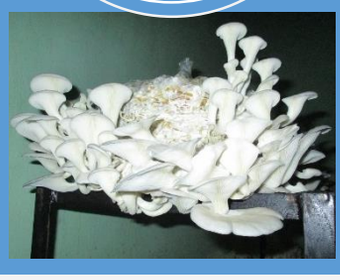
Employment Support

コロニーの人々の経済的な自立

就労支援事業部では、就労機会の提供を行うことで、インドハンセン病コロニーの人々が物乞いに頼らずに生活できる未来を目指しています。2016年12月より新たにきのこ栽培トレーニング事業が始まり、就労支援事業がめざましく発展しました。2017年度は、成功事例の確立、さらに新しいプロジェクトの発足などを行うことで基盤強化に努めていきます。また、日本で展開しているインド雑貨やさんoaksではインドハンセン病コロニーの人々が作製したアクセサリーや雑貨を中心に販売を行っています。

きのこ栽培トレーニング事業

ビシュナプールコロニーにてきのこ栽培トレーニング事業を開始しました。 コロニー内の空き家を栽培小屋とし、栽培したきのこは現地カウンターパートナーを通じて販売しました。今回はウイルスの影響で収穫量は少なかったのですが、栽培から収穫までの全行程を予定通り行うことができました。2017年度も引き続き栽培を行い、コロニーの人々の生活がきのこ栽培事業だけで成り立つようにしていきます。



アクセサリー製作トレーニング事業

マニプールコロニー在住の20代～40歳代の女性を対象として、ピアスのチャーム製作トレーニングを行いました。彼女たちが初めて見る素材だったため、最初は苦戦していましたが、練習を重ねることで最終的には全員が完成品を作ることができました。製作したものはわぴねすが買い取り、最終仕上げを施した上でインド雑貨やさんoaksで販売をする予定です。

インド雑貨やさんoaks（インド雑貨輸入販売事業）

“あなたのオシャレが世界をちょっと良くする”をテーマに、おしゃれなインド雑貨やかわいいアクセサリーの販売を行っています。 2016年度はオンラインショップのリニューアル、商品の拡充など基盤強化に努めた結果、オンラインショップの売上も徐々にではありますが伸び始めました。
2017年度は引き続き、新たな人気商品のプロデュースや発掘、インスタグラムを始めとするSNSでの広報などを強化して集客につなげ、これまで以上にコロニーの人々の作った商品をたくさん販売していきたいと思います。

教育事業部

Educational Support

国内外の若者の啓発教育

教育事業部では、ハンセン病問題を学ぶことを通じて、差別や偏見がどのように社会で人を孤立させるのか、どのように個人の尊厳を奪うのかを考え、人が人を互いに思い遣ることの大切さを若者に感じてもらうことを目的として活動を行っています。2016年度は、例年行っている国内のハンセン病療養所を訪問することで日本のハンセン病問題を若者に学んでもらう療養所訪問プロジェクトに加え、新たに、小学生を対象としたハンセン病問題の啓発教育プロジェクトが行われました。

駿河療養所訪問プロジェクト－大晦日除夜の鐘つき大会－

【実施日】2016年12月31日～2017年1月1日
【実施場所】国立駿河療養所

国立駿河療養所で毎年行われている大晦日の除夜の鐘つき大会に今年も参加してきました。去年よりも参加者の人数が増え、総勢15名で鐘つき大会を盛り上げてきました。除夜の鐘つきに来られる入所者の方や地域の方々に、温かい甘酒や豚汁を振る舞って、焚き火を囲んで語り合い交流を深めました。また、鐘つき大会の他にも、療養所内でのフィールドワークやハンセン病文学作品を読んで意見交換をする読書会を行い、参加した学生たちが充実した学びの時間を過ごすことができました。

小学校啓発教育プロジェクト

【実施日】2017年6月29日
【実施場所】北名古屋市立西春小学校

ハンセン病問題を学ぶことを通じて、病気や身体的な障がいを理由に差別やいじめをすることはいけないことだと小学生に感じてもらうことを目的として今年から新たに発足したプロジェクトです。初めてのプロジェクト実施は、北名古屋市立西春小学校で行われました。とても元気な子供たちで、全員が熱心に耳を傾けてくれました。

NIC Global Youth Award 2016

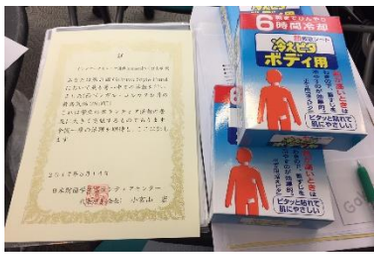
名古屋国際センター主催のNIC Global Youth Award 2016にてわぴねすが"特別奨励賞"を受賞しました。NIC Global Youth Awardとは、名古屋を中心に「国際交流・国際協力・多文化共生」などの分野で活躍している若者の団体を表彰し、活動をサポートしていくプロジェクトで、2016年から始まったものです。「名古屋の学生がインドで実際に活動を行っている」という点を高く評価していただきました。今後は、インド現地での活動はもちろんですが、日本で活動の成果を発信していくことにも更に力を入れていきます。

2016 TOPICS

２０１６年度（２０１６年7月～２０１７年6月）のトピックスと今後の展開についてお知らせします。

Gakuvo Style Fund 2016

日本財団学生ボランティアセンター主催のGakuvo Style Fund 2016にて、インドワークキャンプ団体namaste!つくば支部が協力金採択団体に選ばれました。
インフラ整備などの物質的支援のみでなく、ワークキャンプ活動によるコロニーの人々の被差別意識の軽減に努めていることを評価していただきました。賞状と賞金、副賞として酷暑のインドで使える冷えピタなどをいただきました。



“世界ハンセン病デー” デモ参加

2017年1月31日（世界ハンセン病デー）に、コルカタで大規模なデモ活動が行われ、わぴねすが活動を行っているコロニーの村人たちと共に代表理事の梶田が参加してきました。
この活動では、ウエストベンガル州内38ヶ所のハンセン病コロニーから集まった人々(約4000人)によるデモ行進と州知事に対する嘆願書の提出が行われました。

トリベディ氏との会談

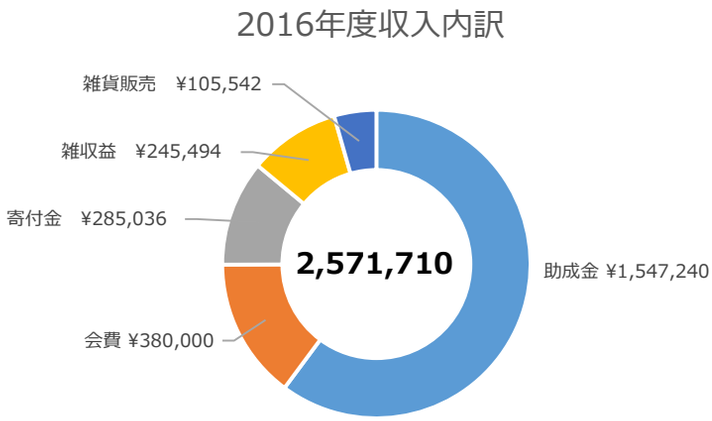
元インド政府の鉄道大臣であり、現インドヨーロピアン連合議会フォーラムの議長であるディネシュ・トリベディ氏と、2017年5月にデリーにて代表理事の梶田が会談を行ってきました。
ウェストベンガル州のマニプールハンセン病コロニーには、貧困で子供を養育できない親に代わって子供を預かるための施設やハンセン病の後遺症がある独居老人を介護するための施設があり、その二つの施設に対する政府からの委託金の支払いが滞っている件について、トリベディ氏を通じて政府の担当職員へ委託金を滞りなく支払うように働きかけてもらうことができました。
会談の最後に、私たちの活動やハンセン病コロニー人々の自立支援に関して、今後も応援して下さるという力強いお言葉をトリベディ氏からいただきました。

新たなハンセン病コロニーの調査

2017年1月から5月の渡航にて、ウエストベンガル州にある5ヶ所のコロニーを視察しました。
コロニーの状況は、政府の助成金を元に自立した生活ができ始めているコロニーもあれば、大雨が降ると洪水で家屋が流される危険に晒されているコロニーもあり、貧困の程度は様々でした。
今回の各コロニーの人口、インフラ状況、就労状況、就学状況などの調査結果は、今後のワークキャンプ事業や就労支援事業を行う際のコロニー選定の基準として役立てていきます。

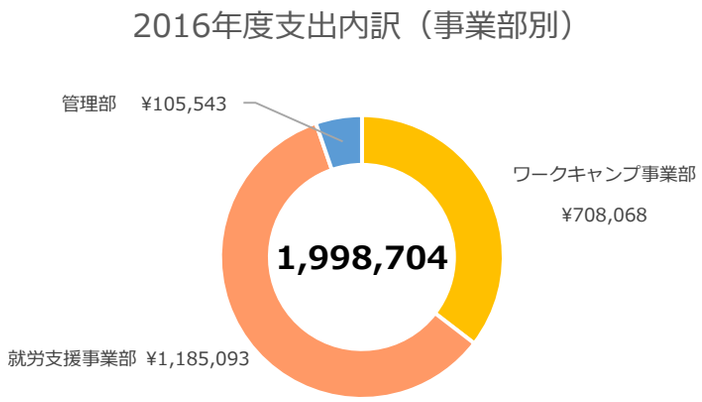
2016年度収入

2016年度はJICA、笹川記念保健協力財団からの助成金収入が主な収益源となりました。事業収益のメインであるインド雑貨輸入販売事業は今期基礎作りに注力したため、約114千円の収益に留まっていますが、来期以降の売上増加を見込んでいます。また寄付金及び会費として665千円、述べ70人以上の方からの支援をいただきました。
2017年度は組織として安定した財務体制にするために、インド雑貨販売などの事業収益の向上に注力していきます。一方で、決済システムの導入を行い、支援者の拡大も目指します。



2016年度支出

前期までワークキャンプ事業部がメインの活動でしたが、今期より就労トレーニングを開始しました。2ヶ所のコロニーで2種類のトレーニングを行ったため、就労支援事業部の支出が総支出の半分以上を占める結果となりました。
管理部の支出は2016年12月まで使用していた名古屋オフィスの賃借料が大部分を占めています。
2017年度は引き続き、就労トレーニングを行うため、現地への投資額は今期と変わらない水準を維持していきます。またインド雑貨販売売上増加に伴い、今期よりも支出が増加する予定でいます。



NPO法人わぴねす団体概要

正式名称	特定非営利活動法人わぴねす
代表理事	梶田恵理子
副代表理事	安田亜希
理事	檜山大輔 吉田賢太
監事	蘆川洵
協力団体	笹川記念保健協力財団 Pyari Foundation-India Trust NGO FPSA
活動内容	マイノリティの社会的地位の向上及び尊厳の回復を目的として、インドハンセン病コロニーにてハンセン病問題解決のために活動を行なう
事業形態	・ワークキャンプ事業部 ・就労支援事業部 ・教育事業部
WEBサイト	・NPO法人わぴねす http://wappiness.org ・インドワークキャンプ団体namaste! http://namaste.wappiness.org ・インド雑貨やさんoaks http://oaks-shop.wappiness.org